

UNI 世界金融部会年金基金セミナーに参加



世界中の銀行・保険産業で働く仲間が アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに集結!



生保労連は国内外の働く仲間とのネットワーク強化の一環としてUNI*を通じた国際交流を行っております。6月にアルゼンチンの首都ブエノスアイレスにて開催された、UNI世界金融部会年金基金セミナーでは、「労働者のお金、労働者の未来～年金基金は労働組合のパワーツールとなるか?～」をテーマに世界中の仲間と白熱した議論を行い、各国の課題や取組み・見解等を共有しました。

世界金融部会年金基金セミナーには約70名（日本からは9名）の銀行部門・保険部門の組合指導者が参加し、「中南米の年金制度と労働組合の関わりについての概要」「UNI金融部会加盟組織の行動事例」「年金基金に対してUNI世界金融部会はどのような役割を果たすべきか」等、幅広いテーマについて各国・地域における課題・取組みを共有しました。

「年金は何よりもまず、労働者の資本と老後を守るべきである。労働組合による年金基金活動は、年金基金が持

続可能で未来への投資となるよう、ただ単に年金に関する議論を行うのではなく、『団体交渉』『ジェンダー平等』『多様性』を促進する機会として最大限に活かすべきである。」というリードからセミナーがスタートしました。

生保労連からは松田中央副書記長（現中央書記長）が参加し、私的年金や企業年金等を含めた「公私ミックス」の重要性に加え、労働組合の機能として適切な年金制度運営に向けたチェック機能を果たすことが求められること、国民に対する金融リテラシー向上に向けた取組みが



▲日本からの参加者

重要であることを説明し、世界の仲間に対して力強くアピールを行いました。

※：UNI（ユニオン・ネットワーク・インターナショナル）：世界150国の商業、流通、情報、金融等、サービス産業の900労働組合が加盟する国際産業別労働組合。組合員数は2,000万人。



▲発言する松田中央副書記長（現中央書記長）